

鶴だより

釧路市動物園 ふれあい主幹
松本 文雄



今冬の阿寒の タンチョウ

3月に入り、給餌場に訪れるタンチョウたちも徐々に少なくなってきています。今年の阿寒の越冬状況はどうだったのでしょうか？

11月は比較的暖かく、12月に入り少しずつ冷え込みは厳しくなってきましたが、雪が降らないため、周辺の畑で食べ物が取れるので、給餌場には時折飛来する程度でした。また、給餌場に通年いるつがいが飛来するタンチョウを追い払うため、なかなか多くのタンチョウが定着しませんでした。大地が雪に覆われるようになった12月下旬から集まりはじめ、給餌場で100羽を超すタンチョウが見られるようになりました。1～2月は一転して気温が下がり、最低気温が氷点下20度を下回る日が何日もありました。タンチョウにとっても厳しかったようで、朝8時頃の給餌に合わせて飛来してきますが、寒いせいか、餌を食べた後に座り込んで休んでいるタンチョウも多数見られました。

給餌場の最大飛来羽数は190羽程度にとどまり、昨年と大きな違いはないようです。阿寒川流域全体ではどうかというと、給餌場より上流にねぐらを取り、周辺の農家で餌を取るタンチョウが増加していました。また、下流域では、寒さのため川が全面的に凍ってしまいましたが、それでも10羽程度のタンチョウが越冬していたようです。また、阿寒川から6キロほど東のところを流れる仁々志別川でも40羽程度のタンチョウが越冬したようです。阿寒町内で越冬するタンチョウの数は、昨年と変わらない状況でした。

前号の鶴群で紹介していましたが、環境省の方針で、給餌量が削減され、最大給餌量は5年前の半分になっています。結果として、5年前と比べ、給餌場に来るタンチョウは若干減りましたが、周辺を加えると、阿寒の越冬数の大きな減少は見られません。環境省の給餌量削減事業は、現在の越冬場所から別の場所への分散を目的としていますが、現実には周辺に広がっただけで、新たな越冬地への分散までにはいつていないようです。今後は、給餌量削減だけでなく、越冬地分散につながるような取り組みも必要になってくるでしょう。また、給餌量の削減で栄養状態の悪いタンチョウが現れないように気を付けていかなければなりません。釧路市は愛護会に委託して、ねぐらの監視をお願いしていますが、越冬状況の把握のためにも大事な仕事となります。



給餌の様子